

衣川閑齋

きぬがわ・かんさい

福山藩儒

経歴

生: 明和6年(1769年)、備後国川口村(現福山市川口町)生まれ

没: 弘化4年(1847年)11月2日、享年79歳、妙政寺に葬る

—	—	備中笠岡の医者進藤養節の弟子となる
天明6年(1786年)	18歳	福山藩豊奉行衣川治兵衛の養子となる
寛政5年(1793年)	25歳	弘道館掛
寛政9年(1797年)	29歳	儒者見習
文化6年(1809年)	41歳	福山藩儒
文化6年(1809年)	41歳	福山藩土沖与治兵衛の子作蔵を養子にする
文政10年(1827年)	59歳	江戸へ祇役
文政11年(1828年)	60歳	福山へ戻る
天保2年(1831年)	63歳	弘道館纏心得(館長)
天保5年(1834年)	66歳	弘道館本役
天保10年(1839年)	70歳	勤続50年で紋付上下を賜う (出典6)

生い立ちと学業、業績

名は徂・効、字は士則・廣皓・廣徳、通称は吉蔵、閑齋・白桃軒・昧翁と号した。

備中笠岡の医者進藤養節の弟子で養子。

のち天明6年(1786年)福山藩豊奉行衣川治兵衛広但の養子となる。

川口村の出身という。

佐分利流免許。

寛政5年(1793年)弘道館掛、寛政9年(1797年)儒者見習を経て、文化6年(1809年)福山藩儒となる。

文政10年(1827年)江戸へ祇役、翌年帰福、天保2年(1831年)鈴木宜山が東役中には弘道館纏心得、天保5年(1834年)本役となる。

効は文を善くし、『論経書』『論文章』などがあり、その識見は高かった。
しかし詩を作ることには否定的で70歳のときに『漢詩無用論』なるものも書いている。
山室武左衛門(箕陽)の墓碑を撰ぶ。

弘化4年(1847年)11月2日、79歳にて歿す。墓は妙政寺。

福山藩儒となった文化6年(1809年)41歳のとき、沖与治兵衛の子を迎えたのが衣川作蔵である。(出典1)～(出典7)

出典1:『近世後期の福山藩の学問と文芸』、80頁、福山市立福山城博物館編刊、1996年4月6日

出典2:『福山藩の文人誌』、56・94・99頁、濱本鶴賓著、葦陽文化研究会編刊、1988年7月27日

出典3:『福山藩の教育と沿革史』、145頁、清水久人著、鷹の羽会本部阿部正弘公顕彰会編刊、1999年8月20日

出典4:『郷賢録』、6頁、福田禄太郎著、福山城博物館友の会編刊、平成12年10月1日

出典5:『文化財ふくやま(第27号)』、52頁、福山市文化財協会編刊、平成4年6月25日

出典6:『福山学生会雑誌(第72号)』、19頁、福山学生会事務所編刊、昭和6年7月31日

出典7:『福山の今昔』、155頁、濱本鶴賓著、立石岩三郎刊、大正6年4月26日

2005年2月15日更新:経歴追加・本文●2005年3月25日更新:出典●2006年6月23日更新:タイトル●2007年9月25日更新:経歴・本文・関連情報・出典●2007年9月26日更新:経歴・本文・関連情報●2007年9月27日更新:本文・関連情報●2008年1月31日更新:本文・関連情報削除●2008年7月31日更新:経歴・出典●2008年8月19日更新:本文●2010年3月18日更新:本文・出典●